

大阪市の市電関係橋梁図面 一括(原図 854 点・青図 450 点)

大阪市の市電関係橋梁図面

おおさかしのしでんかんけいきょうりょうずめん

分野／部門

有形文化財／歴史資料

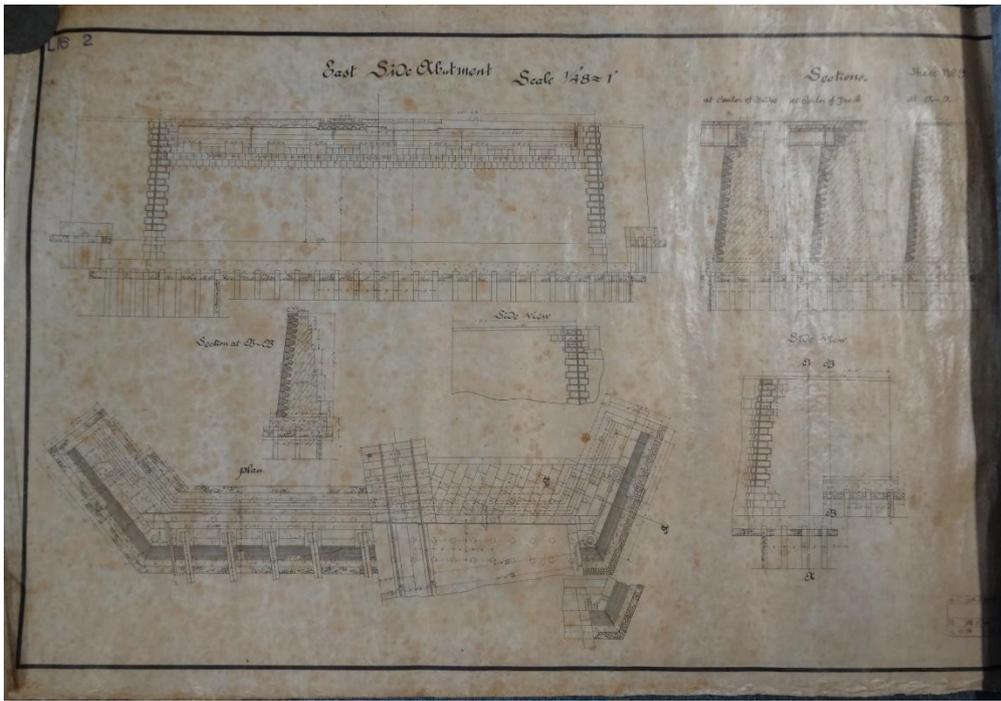
所有者

大阪市(教育委員会事務局)

所在地

大阪市北区中之島 1

紹介



大阪市の市電関係橋梁図面

市電事業に伴って架けられた橋梁は、明治末期から昭和初期にかけて建設されてきた。現存するものは本町橋のみで、あとは難波橋(なにわばし)に外観意匠が残されるのみであるが、残された図面から、当時の建設計画、設計の方法や意図、建設材料を知ることができる。図面は旧大阪市交通局の前身である電気局(電気鉄道部)等が作成したもので、原図 854 枚と青図(あおず)450 点が残る。原図には第 1 期線から期外線に至るまで約 70 橋分の図面が、青図には 51 橋分があり、青図にしかないもの 6 橋分・57 点が存在する。これらの図面は本市の近代化の歩みを物語るとともに、時代を経て連続的に建設されてきたことで国内橋梁技術の発展過程を読み取ることのできる重要な歴史資料であるといえる。

用語解説

青図(あおず) 建築土木図面の多くは、トレーシングペーパーなどに作図され、ジアゾ複写機(青焼機)で複製される。その複製のこと。